

絵図を用いた歴史的景観の把握

中司涼介・吉川 眞・田中一成

Historical Landscape Analysis Based on Historic Scenic Picture

Ryosuke NAKATSUKA , Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

Abstract: There has been a growing interest in the conservation of historical townscape and buildings since the Act on Maintenance and Improvement of Historic Scenic Beauty was enacted in January 2008. In Nara prefecture, a lot of landscape resources including temples and shrines have been left in the historical townscape. In the Edo period, various historic scenic pictures were drawn. So the good landscape had been formed in the Edo period. In this study, the authors analyze the relationship between the past landscape and the present one by using the spatial information technology based on the historic scenic pictures in the Edo period.

Keywords: 景観 (landscape), 絵図 (historic scenic picture), 奈良県 (Nara prefecture)

1. はじめに

古来より日本人は、豊かな自然を尊び、それぞれの地域特性を活かし文化を形成し生活を営んできた。江戸時代から明治時代にかけて日本を訪れた外国人に、日本の景観は美しく、世界でも類を見ないと絶賛された。

しかし、戦後復興期や高度経済成長期における経済成長第一主義、機能優先主義、効率優先の基で国が再建され、急速な都市化が進んだ。利便性を中心とした町並みが形成されてしまった。結果、人々が古来より大切にしていた豊かな自然とそれぞれの地域独特の文化というものを忘れてしまい、かつて美しいとされていた景観、豊かな自然は破壊され、その姿を失いつつある。

2004 年 6 月に景観法が成立し、12 月に施行された。日本で初めての景観に関する総合的な法

律であり、景観計画の策定や景観計画区域などでの建築等に係わる行為規制、ランドマークの保全や景観に則した公共施設の整備が規定されている。さらに、2008 年 1 月には地域の個性を活かすため、歴史的建造物の保全や活用といった取り組みが促進され、それらの維持・活用したまちづくりを支援するための「歴史まちづくり法」が制定された。このように、近年では歴史的建造物あるいは歴史的町並みの保全に対する関心が高まっている。奈良県は、飛鳥時代、奈良時代に都が置かれ、日本の文化・政治の中心として栄えた。仏教の伝来以来、神社仏閣が多く建立されている。歴史的町並みを保全するには、当時の景観を知る必要がある。過去と現代の繋がりを絵図からのアプローチにより把握することが可能である(石田圭太ら, 2010)。

一方、高度情報化社会となった近年、空間情報技術も急速に普及し、GIS の利用がより身近になっている。歴史に関する研究においても、情報のデータベース化、歴史的景観の把握など、GIS が有効なツールとして活用することができる。

中司 涼介 〒585-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学大学院 工学研究科

都市デザイン工学専攻

Phone: 06-6954-4109

E-mail: m1m14104@st.oit.ac.jp

2. 研究の目的と方法

魅力的な景観と呼ばれるものは、人それぞれ異なるが、日常と非日常の両面で存在する。現代では、歴史的なものに触れることが少ないが、現代空間での生活のなかで、寺社仏閣が身近ながらも非日常を経験できる場となっている。本研究では、古都と呼ばれた奈良県を対象とし、江戸時代に描かれた当時の観光マップと呼ばれる「大和名所図会」[寛政3年(1791年)秋里籬島、竹原春朝斎]、「南都名所集」[延宝3年(1675年)太田叙親、村井道弘]の景観図を参考に、過去の景観と現代の景観の関係性を見出すことを目的とする。なお、これらの景観図は、奈良県立図書情報館、早稲田大学図書館のデータベースを使用している。

具体的な研究方法として、対象範囲を絞り込むために、空間分析機能に特化した GIS を用いる。まず、江戸時代に描かれた「大和名所図会」と「南都名所集」に景観図として描かれた寺社仏閣、山、里、川を抽出し位置情報をポイントデータとして GIS 上に定位する。さらに、大和名所図会、南都名所集のポイントそれぞれでホットスポット分析を行う。これにより、江戸時代当時の名所の中の名所を平面図に表現し、狭域な範囲を選定している。最後に、景観図より過去の景観と現代の景観の変遷と対比を分析によって明らかにする。

3. 大和国 奈良県

奈良県は、江戸時代大和国と呼ばれ、当時の旧国と現在の県の形はほぼ一致している。周りを山々に囲まれており、内陸部に位置していることから、当時から港を利用した移動・商売は不可能であった(図-1)。そのため、商売と集落を発展させていくために陸の交通網である街道が発達した。他国とつながっている街道が、主要街道だけでも10街道あり、当時人の行き来が激しく、にぎわっていたことが窺い知れる。

近年では、平城遷都1300年祭があり、平城宮跡大極殿復元や当時からの寺社仏閣、さらには江

戸時代からの歴史的町並みの観光地として注目を浴びつつある。

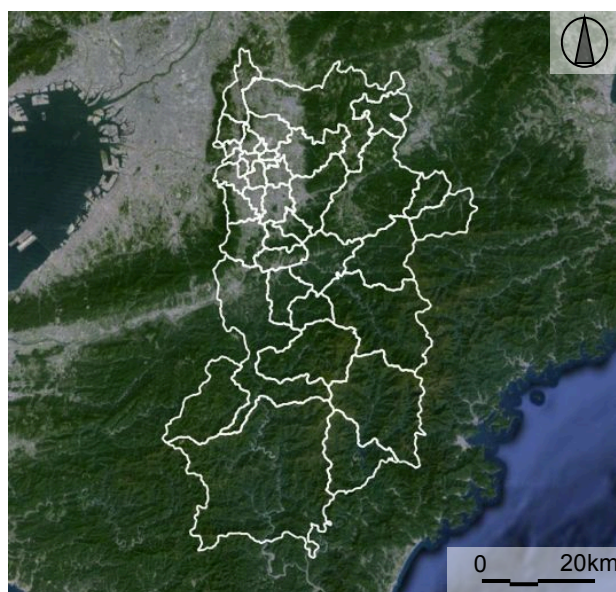


図-1 奈良県

4. 狭域な対象地の選定

4.1 景観図の位置把握

狭域な対象地を選定するに際し、大和名所図会と南都名所集を使用する。これらは江戸時代の観光ガイドとして刊行された。漢字には読み仮名を付っており地位の高い人だけでなく、一般庶民にも親しみやすく作られている。さらに大和名所図会に関する現代語訳で解説(本渡章, 2007)を参考にしている。大和名所図会、南都名所集は絵図、景観図と文章で構成されている。文章と絵図が用いられている名所と、文章のみで書かれている名所がある。本研究では、歴史的景観の把握のため、文章のみの名所は省き、絵図、景観図として描かれている名所を抽出する。絵図に描かれている各名所を取り上げ、位置情報を付与しポイントデータとして GIS 上に定位した(図-2)。

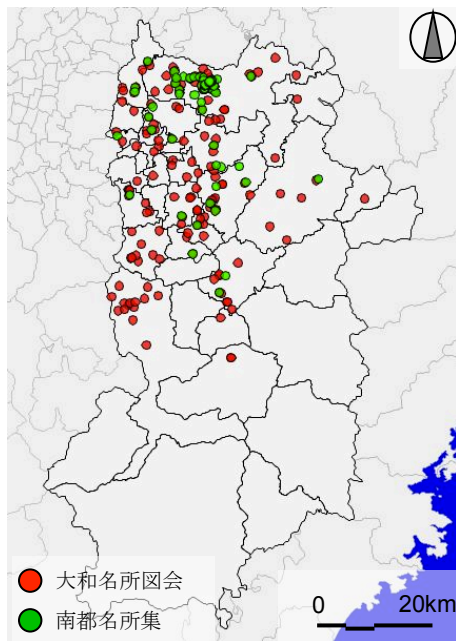


図-2 名所の位置図

4.2 景観図のホットスポット分析

奈良県では、南部、東部が険しい山岳部のため名所と呼ばれる所はほとんどと言っていいほど存在しない。名所の位置図を見ても一目瞭然である。そこで名所が集中している北部、北西部の中からさらに集中している部分を抽出する。分析にはホットスポット分析を応用する。ホットスポット分析は、犯罪件数、事故の深刻度、スポーツ用品の購入額等を空間的に把握する際に、よく使用されている。本研究では、大和名所図会、南都名所集それぞれのポイントデータをもとにホットスポット分析を用いて、名所が集中している場所を把握した（図-3）。結果として、大和名所図会の場合、算出された標準偏差の値が 17.0 以上であれば 99%以上、13.0 であれば 95%、9.0 であれば 90%の信頼度が得られるホットスポットが抽出された。また、南都名所集でも、算出された標準偏差の値が 28.2 以上であれば 99%以上、21.4 であれば 95%、14.6 であれば 90%の信頼度が得られるホットスポットが抽出された。この結果より、名所のなかでも名所と呼べる場所を把握することができる。さらに、大和名所図会、南都

名所集どちらにおいても、99%以上名所と言える場所は一箇所のみであり、ほぼ同じ位置であることがわかり、江戸時代の大和国ではこの場所が名所であったと言える。

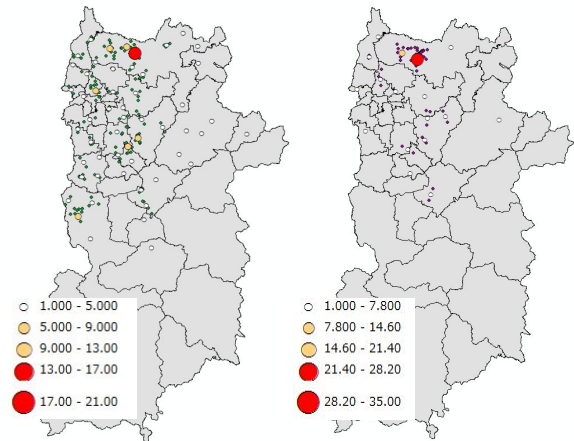


図-3 ホットスポット分析結果
左;大和名所図会 右;南都名所集

ホットスポット分析の結果より、99%以上名所と呼べるホットスポットを二点抽出した。これらのホットスポットを構成する名所ポイントを以下の表で示す（表-1;表-2）。

表-1 影響している場所 大和名所図会

赤穂神社	海龍王寺	氷室神社	善城寺
春日大宮	興福尼院	興福寺	空海寺
若宮神社	般若寺	眉間寺	祇園社八坂神社
東大寺	白毫寺	元興寺	率川神社
二月堂	五百立神社	西光院	
不退寺	法華寺	安養寺	

表-2 影響している場所 南都名所集

興福尼院	興福寺食堂	興福寺中院屋	戒壇堂
東大寺 大仏殿	興福寺東金堂	氷室神社	猿沢池
念仏堂	興福寺北円堂	佐保川	頭塔
二月堂	興福寺講堂	白毫寺	率川神社
四月堂	興福寺中金堂	眉間寺	観音院
八幡宮	興福寺南円堂	元興寺	法徳寺
中門	興福寺西金堂	南都御霊神社	鶯塚古墳
東大寺真言院	興福寺 五重塔	誕生寺	新薬師寺

さらに、両方にして描かれている名所ポイントは以下に示す通りである（表-3）。大和名所図会では、遠景で描かれており、大きな寺社仏閣であっても一枚の絵図で描かれているためポイントは一点であるが、南都名所集は一つの寺社仏閣であっても建築物ごとに描かれているため、ポイント数は増えている。

表-3 共通の場所

東大寺	東大寺 中門	元興寺
	東大寺 大仏殿	率川神社
	念仏堂	眉間寺
	二月堂	氷室神社
	三月堂	白毫寺
	東大寺 四月堂	
興福寺	興福寺東金堂	
	興福寺北円堂	
	興福寺講堂	
	興福寺中金堂	
	興福寺南円堂	
	興福寺西金堂	
	興福寺 五重塔	
	興福寺 菩薩院	
	興福寺中院屋	
	興福寺食堂	

5. 景観図の比較と現代

南都名所集、大和名所図会は同じ江戸時代に作成されたものだが、南都名所集から100年以上あとに大和名所図会が作成されている。興福寺を例にとってみると、南都名所集で描かれている建物が、大和名所図会では描かれていない（図-4;図-5）。同じ江戸時代でも100年を経ると景観変化が起き、景観変遷となっていると理解できる。現代の興福寺は、再建計画があり、南都名所集の頃の景観に移り変わって行くことも期待できる。



図-4 南都名所集 興福寺

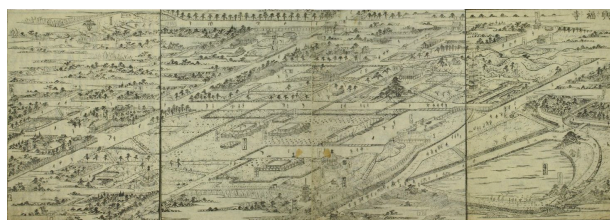


図-5 大和名所図会 興福寺

6. おわりに

江戸時代の名所と呼ばれた場所の中から、特に名所と言える場所を抽出することができた。また、景観図より、江戸時代の中での景観対比や、さらに現代との対比も行えた。

今後は、東大寺や興福寺を中心に、GIS上での二次元データベースの構築を行い、CADを用いた三次元復元モデルを作成し、三次元的に空間分析を展開していきたいと考えている。

参考文献

本渡章（2007）：「奈良名所むかし案内 絵とき大和名所図会」、創元社。

石田圭太・吉川 眞・田中一成（2010）：祭礼空間の分析，地理情報システム学会研究発表大会講演論文集，Vol. 19, 5C-4. pdf（CD-ROM）

奈良県立図書情報館：南都名所集
<http://opacsvr01.library.pref.nara.jp/mylimedio/top.do>

早稲田大学図書館古典データベース：大和名所図会
<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/index.html>